

蘆花会通信

第9号

2025年(令和7年)
8月20日

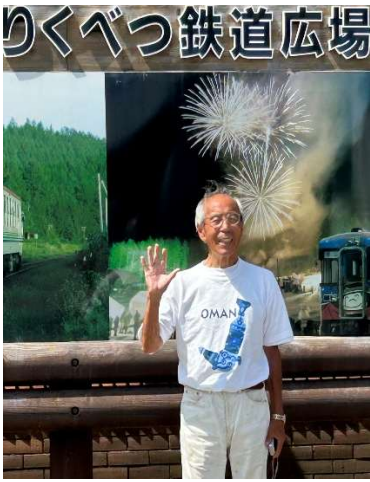
特定非営利活動法人

蘆花会

編集発行人佐久間保明
<https://www.rokakai.com/>

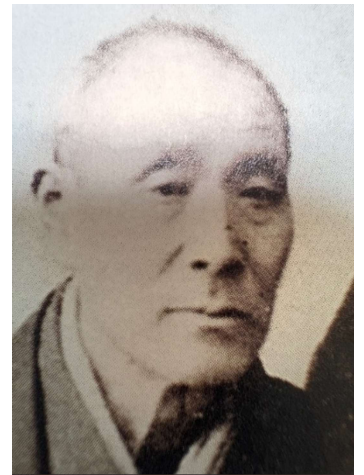
蘭方医関寛齋の跡を訪ねて

今年の愛子忌の集いでは予定どおり、異色の蘭方医関寛齋について、佐久間が報告しました。関寛齋については『みづずのたはこと』に詳しく述べられているので蘆花の愛読者ならなじみの人物でしょう。今回は昨年の七月に旭川市春光台在住の芦田孝氏(八〇)とともに陸別町を訪れた経緯を話しました。



高い理想の持ち主であった関寛齋は一九〇二(明治三五年)年に、七〇歳を超えて徳島から北海道に渡り未開の原野であった陸別で開拓を始めました。蘆花については八男である五郎からの勧めがあつたようです。

渡道から六年後寛齋は粕谷を訪れ、蘆花は「妙な爺さんが訪ねて来た。「略」年を問えば七十九。強健な老人ぶりに、主人は先ず我を折つた」(岩波文庫)と受け、招かれて二年後陸別を訪ねました。共に傑物である両者の生き方は異なっても、トルストイへの共感を基に信頼関係が生じたのです。その記録は本



書に詳しく、更に二年後蘆花は、「人並みの道は通らぬ梅見かな」の句とともに八十二歳の寛齋が自裁したことを知ります。

一昨年の愛子忌に出席された芦田孝氏に寛齋調査のために渡道すると告げると直ちにご自分も一緒にと望まれ、二人で陸別に行きました。かつて蘆花が使った池田からの鉄道が今は廃止となつているので網走からはバス便になります。

初めは陸の孤島のような内陸の町は現在国道が通り、駅舎の跡には「オーロラタウン93」という名の道の駅ができていました。そこでは関寛齋資料館が設置され、多くの資料を展示して幕末維新

の群像とともに、生涯にわたる寛齋の遺徳がわかりやすく示されています。

道の駅の広場には寛齋の銅像がありました。それは等身大の寛齋が左手に鋏を持って体を支え、右手を前に伸ばして身をやじりながらはるか彼方を見つめている躍動的な姿勢の像です。まるで寛齋の理想と意欲が顕現しているようで、見事な造形が印象を深めるでしょう。また芝生の地面には寛齋の歌句が刻まれた八基の石碑が並んで設置されています。

資料館の二階が宿舎になつていたので一泊したのち、翌日町役場に出向き教育委員会員の職員に会うことができました。これは地元の文化活動に熱心な芦田孝氏の意向に沿うものでした。

ところがなんと、今年の二月、愛子忌の後に突然の訃報が届きました。今もなお元気だった芦田氏の姿がまぶたから消えまません。嗚呼、合掌。

蘆花忌の集いは

九月二十日(土)

前号の「通信」では今年の蘆花忌の集いについて一周遅く第三土曜日とする予告を記載しましたが、その後再検討し、従前どおり第二土曜日とすることにしました。どうかご注意ください。

講演には早稲田大学名誉教授で、日本近代文学館の理事長や全国文学館協議会会長を務められた中島国彦氏をお招きします。演題は「『みづのたはこと』の風景表象―武蔵野の自然を見る―」となりました。

中島国彦氏は長く早大文学部で教鞭をとられ、日本近

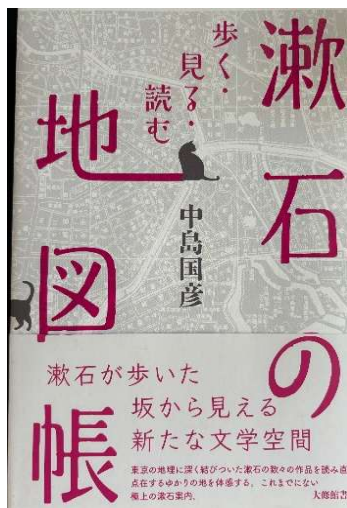


大文学研究の第一人者として知られています。代表的な著作として八〇〇ページを超える大著『近代文学にみる感受性』(一九九四筑摩書房)があります。中島氏は特に美術にも造詣が深く、本書では明治大正から昭和に渉る近代作家の感受性を軸に、鋭い洞察力と持ち味の柔軟な感性によって広く日本近代前半の文学表現を丁寧にあとづけています。既製の文学史の枠組みに捉われることなく文学史家として独自の視点貫こうとする姿勢が高い評価を得ているゆえんでしょう。

また中島氏は『白秋全集』『荷風全集』『定本漱石全集』(岩波書店)の編纂にも携われ、作品を巡る様々な資料の扱いの手堅さにも定評があります。最近では、文京区立鷗外記念館にも協力されており、二〇二二年には岩波新書『森鷗外 学芸の散歩者』を書きおろされました。

他方中島氏は夏目漱石についても親しく、『夏目漱石の手紙』(共著一九九四大修館書店)をはじめ、『漱石の愛した絵はがき』(共編二〇一六岩波書店)や、『漱石の地図帳』(二〇一八大修館書店)といった写真や絵図の豊富な書籍もあります。

当日は午後一時半受付、二時講演開始です。荒天の場合は愛子夫人居宅内となります。どうぞお気軽にお運びください。



当日は午後一時半受付、二時講演開始です。荒天の場合は愛子夫人居宅内となります。どうぞお気軽にお運びください。

* * *

蘆花は北海道へは二度訪れていません。最初は一九〇三(明治三六)年、小笠原善平が原宿の蘆花宅を訪ねた四箇月後でした。旭川の師団にいたはずの彼に会うためでしたが、会えず仕舞でした。二度目は彼の死後一九一〇(明治四三)年で、旭川を経由して陸別に関寛齋を訪ねた折です。現在旭川市春光台には「蘆花寄生木ゆかりの地」の石碑が建立されています。

「通信」の送付を停止ご希望の場合は左記までお知らせください。

090・1618・9659

Sakumaxim@ezweb.ne.jp(佐久間)

正会員・賛助会員募集

【入会金・年会費】

正会員各 1,000 円

賛助会員各 500 円

【振込先】

三菱 UFJ 銀行王子駅前支店

特定非営利活動法人蘆花会

普通 0274264